

秦豊吉 （幼名） 繙譯家、隨筆家、小説家。明治二十五年一月十四日東京生れ、昭和二十一年七月五日歿（一八九二一九五）。號丸木砂土、寶亭、

秦斐歌等。大正六年東京帝國大學法科大學獨法科卒。二妻（蘭華）入り

ベニリン勤務、昭和八年東京寶塚劇場へ轉じ、十五年社長、二十五年

帝國劇場社長。

譯書、ギョオテ作『若きエネテルの悲み』（大正二年九月十八日新潮

社「新潮文庫」、再刊。六年一月二十一日「エネテル叢書」）、シユ

ニツツレル作『オナトオレ情話集』（大正四年二月十日新潮社「新潮

文庫」）、ドストイエフスキイ作『罪と罰』（生田長江譯名義、大正

四年二月二十一日植竹書院「植竹文庫」。生田春月共譯）、ルウドル

フ・キユルレン著『歐洲戦争と民族主義』（大正六年十二月二十日

富山房）、フツシニイ・フツルクネル著『コストリンドベルクの最後の

戀』（大正十二年五月二十日新潮社）、ゴリキイ作『太陽の子』

（大正十二年十月二十日聚英閣）、「ムストリンドベルク小説全集」

（第2巻『魂の發展史』大正十四年八月十五日新潮社）、「近代劇大

系」（近代劇大系刊行會編、第七巻『獨逸篇・3』共譯、大正十四年

九月二十日新潮社）、ゲエテ作『フアウスト』（大正十五年十二月一

十日聚英閣）、「世界文學全集」（9・同『フアウスト其他』昭和一

年九月十五日、10・クレイスト他作『獨逸古典劇集』中島清共譯・

五年一月二十日、31・シヤプツタレン作『寂しき

人々他八篇』城瀬清共譯・二年十二月二十日、

第二期12・ケツラヤマン作『トシネル外二篇』五年

十一月一日新潮社）、ハルボウ作『メトロポリス（他一篇）』（昭和



城瀬清  
川内義雄  
小林龍雄  
共譯

舟木重信  
中島清  
共譯

二年十一月十日改造社「世界大衆文藝全集」(タルツウル・シエニ  
ツツレエ作)西洋十夜(昭和四年七月十日)二日又藝春秋社出版部(

エリヒ・マリヤ・ルマルク作)西部戦

線異状なし(昭和四年十月五日、普

及版・五年八月二十一日中央公論社)

「世界ユーモヤ全集」(ウィヤドム

・ウツアルスキイ作)獨逸篇(昭和七

年七月五日改造社)、ゲーテ作)ワルタンとドロテヤ(昭和七年八

月十日春陽堂「世界名作文庫」(新潮文庫)(ゲーテ作)ワルマ

ンとドロテヤ(昭和十年八月七日、同)ワグネルの悲劇(十一年

九月二十日、シエニツツレエ作)戀愛の味・ヤナトオ(十二年二月

十五日、シエニツツレエ作)ウイユルム・テル(八月七日、同)群盜(十

三年一月二十一日、ゲーテ作)ワグナウスト(四月二日新潮社、ルマル

ク作)曲部戦線異状なし(二十年九月二十五日新潮社)、ゲーテ作

)ワグナウスト其他(昭和十年十一月二十五日新潮社)「世界名作文

庫」(シエニツツレエ作)輪舞(昭和二十七年七月二十五日二葉

書房)等。

著書)二十一篇(素菱歌名、合著・田山化装選、明治四十二年一月

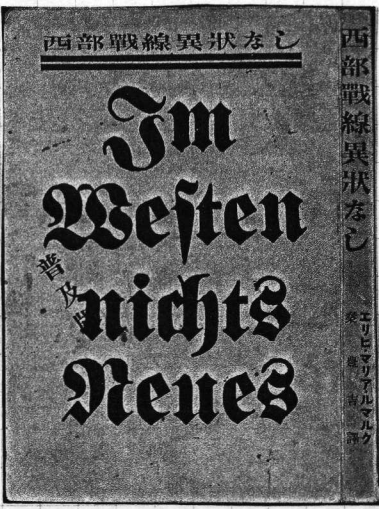
一日東京堂書店)、)又藝春秋(大正十二年五月二十五日聚英閣)、

「獨逸文藝生活」(昭和二年一月十五日聚英閣)、)好色獨逸女(昭

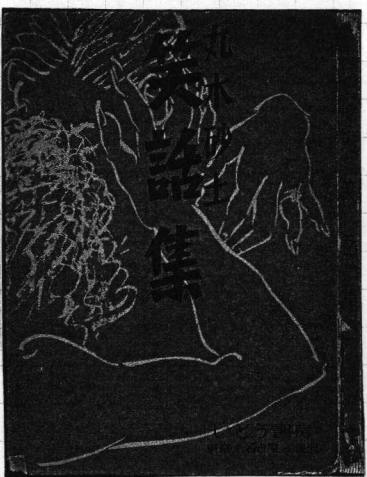
和二年五月十五日又藝春秋社出版部)、)變は笑ひ顔(丸木砂土

名、昭和五年四月二十日中央公論社)、)世知艶文藝稿(同、昭和

五年十月十日武俠社「怪紳全集」)、)夜の話書の話(同、昭和



- 五年十月十九日明星書院)、『風變りの人々』(同、昭和六年五月一日四六書院「新くみゆらん叢書」)、『東京の女王』(同、昭和六年七月十五日文藝春秋社出版部)、『俗林・東京』(昭和八年十一月十日岡倉書房)、『僕の漸次喜多』(昭和九年六月二十日ニッセイ書房)、『丸の内夜話』(昭和十一年七月二十五日秋豐園出版部)、『國語文法講座・第五卷「國語生活篇」』(合著、昭和十一年十一月五日朝日新聞社)、『女の學校』(丸木砂土名、昭和十二年四月五日ひと書房)、『ひとの句會句集』(合著、昭和十二年五月二十日石川・ひと書房)、『結婚廣告』(丸木砂土名、昭和十二年九月五日東邦出版株式會社)、『妻のぬいぬい腹床「丸木砂土名詩集」』(昭和十二年一月一日石川・ひと書房)、『女は句ひ』(丸木砂土名、昭和十二年一月二十日石川・ひと書房)、『じぶんくちやまびーひとの句會隨筆集』(合著、昭和十二年二月十五日黃楊書房)、『好色文學批判』(丸木砂土名、合著・松川建文編、昭和十二年九月十五日ロビン)、『夜の聖書』(同、昭和十二年十月二十日石川・ひと書房)、『笑話集』(同、昭和十二年十一月一日石川・ひと書房)、『寶塚と日劇「私のレビエウ十年」』(再版・昭和二十四年八月十五日ひと書房)、『わが戀するまこと人』(丸木砂土名、昭和二十五年二月二十日タンカ書房)、『昭和の名人會』(昭和二十五年五月吉日序無刊誌)、『私の演劇資料』(第二冊『明治奇蹟史』昭和二十七年、四『寶塚歐洲大演日誌抄』二十八年八月、無刊誌)、『ぐんご・おひ





と』 (昭和二十七年六月) 二十七日出版東京)、『粹人醉筆』 (丸木砂  
 土名、合著・内外タイム本社編、昭和二十七年十月十五日日本出版協  
 同株式会社)、『二葉物語』 (昭和二十七年十一月十五日要書房)、  
 『新丸の内夜話』 (昭和二十八年一月五日小説朝日社)、『藝人』 (昭  
 和二十八年一月十五日鱈書房)、『隨筆』 『離れ恋敷』 (昭和二十八年二  
 月五日要書房)、『ほろろの泣置』 (こころ)、『世京艶文譚』 (丸木砂土  
 名、合著・奥野信太郎)、『数也編』 (昭和二十八年五月十五日小銅出版社)、『隨  
 筆』 『菜の花漬』 (昭和二十八年七月十五日要書房)、『殿方筆紙』 (丸  
 木砂土名、昭和二十八年十一月十日要書房)、『劇場』 (二十年) (昭和  
 二十九年十一月十日朝日新聞社)、『書下』 (一) 等。